

石けんの誕生

石けんは、
酸と出合ったり薄まったりすると
界面活性をすぐに失ってしまう性質があります。
また、人と共存してきた歴史が長い、製造方法がシンプル……
これは合成界面活性剤にはない特長です。

石けんの始まりは、羊を焼いたときに
肉からしたたり落ちた脂と熱々の木灰（アルカリ）が
反応して初めて石けんができたと言われています。



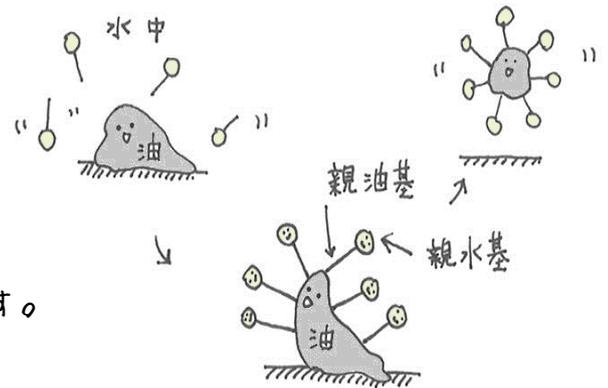
このときの石けんはかなり原始的なものですが、
現在わたしたちが使っている石けんとは本質的には変わり

「たき火」と「焼き肉」程度のことで
簡単にできてしまうことから分かるように、

石けんは数ある人工物の中でも
かなり自然に近いものであると考えられます。

石けんも界面活性剤のひとつです

界面活性剤の「界面」とは「表面」ともいいます。
水になじみやすい(親水基)と、
油になじみやすい(親油基)を持つ
物質のことを界面活性剤といい、
物質の表面(界面)を混ぜ合わせる性質を持ちます。
石けんはそうした性質を持つ界面活性剤のひとつです。



石けんとは合成洗剤

合成洗剤とは、石油や油脂を原料として化学的に合成された洗剤のことをいいます。
水溶性に優れ、洗浄力も強いことが特徴としてあげられます。
しかし、自然界での生分解性が低く、環境に対する負荷が大きいといわれています。

石けんは一定濃度以上で界面活性作用を発揮しますが、
水に薄まると水中の鉱物と結びつき(※石けんかすに変化)急速に界面活性作用を失い
ます。

この性質により、環境への負担は小さいといわれています。

※石けんかすは微生物のエサになり分解されます。